

## 平成28年度第2回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 平成29年2月14日（火）10時～11時10分

会 場 倉敷市役所本庁舎2階 205会議室

### 出席者

委員 中西委員，植田委員，平井委員，森脇委員（監事），岡本委員（会長），木村委員，榊原委員（監事），平岡委員，藤田委員

### 事務局

保健福祉局）藤澤参事

保健福祉推進課）月本課長主幹，清水主幹，久保田主任，落合主事

### 欠席者

永瀬委員（副会長）

傍聴者 なし

### 議事内容（要旨）

#### 1 開 会

委員9名の出席により，倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき，会議が成立していることを確認し，開会を宣言した。今回の会議から，吉田委員の後任として保健福祉委員会委員長中西委員が委員に就任したため，委嘱状の交付を行い，委員全員及び事務局が自己紹介を行った。規約に基づき，会議の進行を岡本会長に依頼した。

#### 2 議 事（発言者：◎会長 ○委員 ■事務局）

##### （1）平成28年度事業の中間報告について

- 資料に従い説明を行った。
- しらかべ号が震災のために実施できなかったということだが，それにより委託料が0になるのではなく，色々な準備・実情があったことを理解していただけたことはありがたい。
- しらかべ号の事業報告書で予算増を検討してほしいとの文言があるが，具体的にどのような内容について次年度増額して欲しいという要望があったのか。
- 近年のバス代の値上がりや，宿泊代を実行委員の交渉で現在は安く抑えられているという実情から，バス代・宿泊代にもう少し余裕が欲しいということを伺っている。

\*\*\*\*\*承認\*\*\*\*\*

##### （2）平成29年度事業計画（案）について

- 資料に従い説明を行った。
- 助成事業について，申請して3年以内に事業を中止する団体がどの程度あるか，3年間の助成終了後きちんと定着しているかをこちらで調べているかを教えて欲しい。
- 3年の助成期間の間にやむを得ず事業を中止した団体もあるが，ほとんどない。助成終了後にどれくらい活動が定着しているかということだが，数年前に運営委員の皆様から同様の意見をいただいたことをきっかけに事業実施アンケートを始めており，助成期間中及び助成終了後2年間の活動状況等を報告してもらっている。
- しらかべ号で予算増の検討をという総括がされているが，来年度の歳出見込みが予算要求額107万

8千円より増えることを想定しているのか。

- 今年度行く事ができなかった山陰方面も来年度の候補地の一つだと実行委員会から聞いている。そうなる場合は事前調査等に係る費用が節約できることもあり、同額かつ同規模の人数で計画をいただいている。
- ◎ 助成制度のPRについては、事業実施アンケートをホームページで紹介するなど、新しい取り組みを行っていくということだ。今ホームページで情報を入手することが一般的になってきている。
- 社会福祉協議会が地区社協への助成を行っているが、地区社協が小学校区で完全に出来上がっていない中で、こうした基金は十分活用されるべきだと思う。地区社協との違いを出し、地区社協の手の届かない部分に基金が活かされるということをアピールしていった方がいいのではないかな。
- どのような活動にこの基金が使えるのかについてはしっかりPRして行きたい。
- ◎ ホームページも、問題関心が沸き起こって使用する人や偶然見る人等、色々な人が用途に応じて使っている。その中で1件でも2件でも情報をキャッチしてもらいたい。
- ホームページを見るきっかけとなる芽生えには身近なところからの口コミが大事。周りで話があれば声を掛けてもらえるとより広がりがあると思うので、よろしくお願いします。
- ◎ ホームページは情報を得る手段として手間も掛からないし、タイムリーな情報も手に入る。
- 私は色々な組織団体に所属しているが、パソコンを見たことがないという人が多い現状も知っておいて欲しい。助成事業の項目の中で、「(2) 健康・生きがづくり、自立支援及び社会参加の推進に関する事業」に申し込む方は結構いると思うが、これからは「(1) 在宅福祉」が重要視されていくだろう。資料を見ると27年度は1件・7750円、28年度は0件だが、基金の助成で(1)に取り組む場合、今までの例を出さないと、取り組みづらく感じられる。
- 実例は載せていないが、助成案内の資料の中で、こんな事業を想定しているという例示はさせていただいている。
- ヘルマンハープという楽器をボランティアで知り合った方に紹介してもらい体験したが、誰にでもすぐできるものだった。これを活用し、外に出られない寝たきりの難病患者の方のお家にボランティアと訪問するという理想に向けて取り組んでいるが、これもひとつの実例ではないか。繋がりが広がり、体験が理想と現実のギャップを埋めていくことで、在宅福祉の方ひとりひとりのニーズに対応できればと感じている。
- 過去の例示だけでなく、どのような在宅福祉の活動があるかをPRしていくことが必要ではないか。
- 仰るとおり分かりにくい分野だと思うので、こういうものではどうかというのを分かりやすい形にしていく必要があると思っている。
- ◎ 始めようとする活動がどれに該当するかをまず考えた時に、幅広い(2)を選びがちで、実際は在宅福祉の向上に繋がる活動でも(2)に吸収されている気もする。また、この基金の目的が事業の立ち上げの応援なので、かっちりしたイメージのある「在宅福祉」にはまだ達していないと思い、枠としては(2)で申請するのではないかな。選択項目として(1)を挙げているのは良いと思うし、全体として事業が上がってくれば基金の目的は達していると思う。基金で立ち上げられたボランティアの今後に関係していくには、ボランティア同士のネットワークで次のステップを見ながら育成していくことが必要。
- ボランティアの中で連携できない状況がかなりあり、厳しい現状だと思っている。
- 倉敷市からすでに何らかの助成を受けている既存団体が新規事業をする場合、その団体名では申請できないのか確認したい。

- 新しい団体にのみ助成するものではなく、新しい事業に助成するためのものなので、既存のボランティア団体やNPO法人が新規事業を始める場合で、その事業に対して別の補助を受けていなければ助成は可能である。
- 友愛訪問などすでに補助を受けている事業については二重にもらうことはできない。その辺りの確認を事前にとってから申請という形でもいいか。
- 分からない時は聞いていただきたい。

\*\*\*\*\*承認\*\*\*\*\*

### 3 閉会

以上により、議事を終了